

## 小項目ごとの検証・確認における論点整理 (年度)

自己評価の区分		判断の目安
IV	年度計画を上回っている	計画の実施状況が100%超
III	概ね年度計画どおり実施している	計画の実施状況が90%超100%以下
II	年度計画を下回っている	計画の実施状況が60%超90%以下
I	年度計画を大幅に下回っている	計画の実施状況が60%以下

## 公立大学法人岐阜県立看護大学

通し 番号	H27 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証										
		業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項	自己 評価	論 点	検 証 (案)									
01	教育理念・目標を基盤として、確立した卒業時到達目標を踏まえて学位授与方針（ディプロマポリシー）を策定し学生便覧に明記する。	教育理念・目標および卒業時の到達目標を踏まえて作成した学位授与方針（ディプロマポリシー）案について、各領域等での検討を重ね修正後教員間で共有した。これを平成28年度学生便覧に明記した。	/		3つのポリシー（ディプロマ・カリキュラム・アドミッション）が独立したものでなく、体系的に関連付けされるように取り組まれたい。									
12	オープンキャンパス、大学ホームページ、教員の出張方式による大学説明会及び模擬授業、大学案内等の刊行等を計画的に継続実施する。	本学で看護を学ぶことの魅力を伝えることを目指して、教育内容の紹介、模擬授業、在学生とのフリートーク等を内容とするオープンキャンパスを実施した。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>内容</th> <th>開催日</th> <th>参加者数等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>オープンキャンパス</td> <td>H27.8.2～8.3</td> <td>924名 (H26:895名)</td> </tr> <tr> <td>出張式 大学説明会</td> <td>H27.4～H28.3 50件（高校14校・岐阜県看護協会等）</td> <td>1,009名 (H26:522名)</td> </tr> </tbody> </table>	内容	開催日	参加者数等	オープンキャンパス	H27.8.2～8.3	924名 (H26:895名)	出張式 大学説明会	H27.4～H28.3 50件（高校14校・岐阜県看護協会等）	1,009名 (H26:522名)	/		オープンキャンパスや説明会の参加人数が増加していることから職員の努力が伺え、評価できる。 大学ポर्टレートへの参加を検討されたい。
内容	開催日	参加者数等												
オープンキャンパス	H27.8.2～8.3	924名 (H26:895名)												
出張式 大学説明会	H27.4～H28.3 50件（高校14校・岐阜県看護協会等）	1,009名 (H26:522名)												
16	看護学統合演習において、卒業時到達目標を基盤とした学生自身の振り返りを支援し、主体的な学修の促進を継続する。	看護学統合演習の授業評価では、「実習体験を振り返り、できたこととできなかったことが明確になった」「自己学修課題が明確になった」という学生が殆どであり、主体的な学修の機会となっていたことを確認した。	/		看護学統合演習の授業評価を通じて、学生の確実な成長が伺え、評価できる。									
25	県内施設及び卒業生の協力を得て、就職ガイダンスを継続実施し、一年次から四年次学生が看護の仕事の本質や魅力を確認できるよう支援する。	就職ガイダンスは、一年次から四年次における体系的な年間計画を整備して実施しているが、学生が看護職としての自身の将来像を主体的に描き、就職について具体的に考えることができるように、看護師、保健師、助産師、養護教諭として働いている卒業生との交流会を開催した（11	/		教職員が目的意識を持ち、就業支援体制の充実を図り、県内就職率60%を超えたことは評価できる。									

通し 番号	H27 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																					
		業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項	自己 評価	論 点	検 証 (案)																																				
		<p>月、一～四年次生 231 人参加)。さらに、県内医療施設 (16 施設) の参加を得て、看護部長や卒業者等による全体説明会と個別相談会を開催した (1 月、二・三年次生 115 人参加)。</p> <p>&lt;平成 27 年度就職状況及び国家試験合格率&gt;</p> <p>卒業生数 81 名 就職者数 78 名 県内就職者数 48 名 県内就職率 61.5%</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>保健 師</th> <th>助産 師</th> <th>看護 師</th> <th>養護 教諭</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>県内</td> <td>3</td> <td>6</td> <td>35</td> <td>4</td> <td>48</td> </tr> <tr> <td>県外</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>26</td> <td>2</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>61</td> <td>6</td> <td>78</td> </tr> </tbody> </table> <p>&lt;国家試験合格率 (平成 28 年 3 月卒) &gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>合格率</th> <th>全国合格率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保健師</td> <td>93.8 %</td> <td>92.6 %</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>100.0 %</td> <td>94.9 %</td> </tr> <tr> <td>助産師</td> <td>100.0 %</td> <td>99.8 %</td> </tr> </tbody> </table>		保健 師	助産 師	看護 師	養護 教諭	計	県内	3	6	35	4	48	県外	2	0	26	2	30	計	5	6	61	6	78		合格率	全国合格率	保健師	93.8 %	92.6 %	看護師	100.0 %	94.9 %	助産師	100.0 %	99.8 %			
	保健 師	助産 師	看護 師	養護 教諭	計																																				
県内	3	6	35	4	48																																				
県外	2	0	26	2	30																																				
計	5	6	61	6	78																																				
	合格率	全国合格率																																							
保健師	93.8 %	92.6 %																																							
看護師	100.0 %	94.9 %																																							
助産師	100.0 %	99.8 %																																							
31	<p>県内保健・医療・福祉施設及び教育機関の看護実践課題について把握し、看護職者の課題解決能力が育成できるように共同研究、看護実践研究指導に取り組み、看護の質向上を目指す。</p>	<p>平成 27 年度の共同研究及び看護実践研究指導事業の課題等は下記のとおりである。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">共同研究事業</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護職の人材育成</td> <td>4 題</td> </tr> <tr> <td>在宅療養支援に関する看護</td> <td>4 題</td> </tr> <tr> <td>育成期にある人々を対象とした看護</td> <td>3 題</td> </tr> <tr> <td>人々の健康を支える保健師の活動</td> <td>3 題</td> </tr> <tr> <td>精神障がい者を支える看護</td> <td>2 題</td> </tr> <tr> <td>神経難病患者を支える看護</td> <td>1 題</td> </tr> <tr> <td>回復期リハビリテーションにおける看護</td> <td>1 題</td> </tr> <tr> <td>外国籍生徒の健康に関する支援</td> <td>1 題</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>19 題</td> </tr> </tbody> </table>	共同研究事業		看護職の人材育成	4 題	在宅療養支援に関する看護	4 題	育成期にある人々を対象とした看護	3 題	人々の健康を支える保健師の活動	3 題	精神障がい者を支える看護	2 題	神経難病患者を支える看護	1 題	回復期リハビリテーションにおける看護	1 題	外国籍生徒の健康に関する支援	1 題	計	19 題			<p>共同研究、看護実践研究指導事業のテーマは時機を得ており、積極的に取り組んでいることは評価できる。</p>																
共同研究事業																																									
看護職の人材育成	4 題																																								
在宅療養支援に関する看護	4 題																																								
育成期にある人々を対象とした看護	3 題																																								
人々の健康を支える保健師の活動	3 題																																								
精神障がい者を支える看護	2 題																																								
神経難病患者を支える看護	1 題																																								
回復期リハビリテーションにおける看護	1 題																																								
外国籍生徒の健康に関する支援	1 題																																								
計	19 題																																								

通し 番号	H27 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証	
		業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項	自己 評価	論 点	検 証 (案)
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">看護実践研究指導事業</p> <p>岐阜県看護実践研究交流会会員への研究支援</p> <p>利用者ニーズを基盤とした退院支援の質向上に向けた看護職者への教育支援</p> <p>地域における母子保健活動の充実に向けた研修会</p> <p>看護の専門性を高める看護管理者のマネジメント能力向上に向けた支援</p> </div> <p>共同研究の発表の場である「共同研究報告と討論の会」では発表後に現場の看護職者と教員による討議を行い、看護実践改善への積極的な意見交流を行った。看護職人材育成、在宅療養支援、育成期における人々の支援、及び保健師の活動のあり方に関するニーズが高いことが確認された。看護実践研究指導事業には各種研修会が含まれ、これらの各種研修会の参加者は、全体で298名（看護師262名、保健師2名、助産師14名）であった。</p>			
32	国内外の学会発表や学術誌への投稿実績及び内容を各領域で自己点検評価し、領域及び教授会において研究の活性化及び内容の充実を図る。	<p>研究活性化対策として、看護教育・看護実践に関する研究を学会や学術誌等に報告することを教員会議等で呼びかけた。その結果、紀要第16巻1号への掲載は、原著2編、研究報告4編、資料7編で総数13編となった。また全体として著書12、学会誌等への論文掲載24編（欧文掲載1編）、看護系学会学術集会発表46編（欧文発表12編）、報告書5編纂（文部科学省科学研究費助成事業研究成果報告書）であり各領域による専門的な発表がなされた。また、これらの実績を各領域で自己点検評価し、自己点検評価委員会において領域を超えて共有した。</p> <p>海外研修支援事業を活用して、3名が国際看護系学術集会への研究発表を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・12th International Family Nursing Conference （平成27年8月18日～21日 デンマーク 1名）</li> <li>・The 6th international conference on community health nursing research（平成27年8月19日～21日 韓国 2名）</li> </ul>			多くの研究成果を学会等に積極的に報告していることは評価できる。

通し 番号	H27 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証	
		業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項	自己 評価	論 点	検 証 (案)
33	教員各自の専門分野の研究を推進・発展させるために、科学研究費補助金等への応募及び採択を支援するための研修を継続する。	科学研究費補助金等への応募の支援として、FD委員会 が科研申請計画書3事例を基に1日研究会におけるテーマ 別グループ討議「科研費の応募について」として9月に開 催した。1日研修会に参加した教員は50名(参加率9 8%)であり、そのうち23名が当該グループ討議に参加 した。科学研究費助成事業について平成27年度は申請し た9件のうち4件が採択され、教員の14名(25%)が研 究代表者となった。 各種研究助成に関する公募情報をメールで35件提供し た。			今後も科研費の採択に向けて積極的に申請 をしていただきたい。
37	岐阜県内で就業している卒業者の本学諸事業への参加を促し、実践活動等に関する情報を「後輩 へのメッセージ」として記載を依頼し、在校生の 県内就職を促進する。	4月の年度当初に就職ガイダンスの日程を含め就職支援 スケジュールを全学生に周知した。学部の二・三年次生を 対象にした県内医療機関就職ガイダンスを1月に開催し、 県内16施設の看護部長及び卒業者等による各施設紹介が 行われた。学生の参加者は、全体説明会115名、各施設単位 の個別相談87名であった。 また、卒後1年目交流会、卒後2年目交流会及び卒業生 交流会において卒業生による後輩へのメッセージ記載を依 頼し、記載内容をオープンキャンパス及び交流会報告書等 で提示した。			県内就職の促進は、県立大学として大切な 使命であるため、今後とも努力されたい。
39	県内看護職者を対象にした看護実践に関する事 業の開催時に大学院研究科に関する情報を提供 し、個別相談を行う。  専門看護師コース修了者の専門看護師認定審査 合格、及び自施設での看護活動を充実させていく ための支援を行う。	大学院研究科への修学促進のため、オープンキャンパス (8月)、「岐阜県看護実践研究交流集会」(9月)及び 「共同研究報告と討論の会」(2月)において専用ブース を設置し、個別相談に応じるとともに、「看護の人材育成 と活用等に関する連絡協議会」(6月)、「人材育成に関 する意見交換会」(岐阜県総合医療センター、羽島市民病 院)(2月)、及び「看護人材に関する三者連絡協議会」 (2月)において、本学大学院看護学研究科の特徴・入試 に関する情報提供を行った。  専門看護師コース修了者について、専門看護師資格審査 申請に向けた支援を継続して行い、平成26年度修了者3 名のうち3名(慢性看護2名、がん看護1名)が合格し、 慢性疾患看護専門看護師及びがん看護専門看護師資格を取 得した。その支援過程を基に、自施設での看護活動を充実			専門看護師コース修了者について、県内施 設での活動支援を引き続き期待したい。

通し 番号	H27 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証	
		業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項	自己 評価	論 点	検 証 (案)
		させていくための方法に繋がるように助言した。また、これにより、本学大学院修了の専門看護師は11名（慢性看護4名、小児看護3名、がん看護4名）となった。			
63	教員間でコミュニケーションを図ることのできる空間を整備し、快適な執務環境とする。	研究室601を、教員が自由に歓談できる部屋として整備した。	Ⅲ		教員が活用できる部屋を整備したことは評価できる。
67	事務職員体制の再構築に向けた検討を行い、素案を作成する。	機能的な業務体制の確立に向けて事務職員体制の見直しを行い、素案を作成した。	Ⅲ		事務職員体制の素案を作成できたことは評価できる。
77	危機管理対策と合わせた情報セキュリティポリシーの見直しを行う。 また、情報セキュリティ研修を継続して行う。	情報セキュリティ対策として、情報セキュリティポリシーや個人情報取扱マニュアルに基づき、「外部記録媒体の管理及び利用に関する要領」を策定した。 また、教職員に対し、情報セキュリティ研修を実施し、危機管理意識の向上に努めた（9月28日・10月2日・10月15日実施）。	Ⅲ		情報セキュリティ対策は極めて大切であり、取り扱う情報の重要性を認識していただきたい。
82	予算編成方針に定める配分予算の95%執行を目指す。	年度末に、配分予算の執行率チェックを行い、95%執行が達成できた。	Ⅲ		予算執行率95%を達成できたことは評価できる。
87	利用しやすく、分かりやすいホームページを構築し、以後の速やかな情報更新に努める。	利用しやすく、分かりやすい情報提供を心がけて新しいホームページを構築した。また、情報の更新については、随時、速やかに行った。	Ⅲ		新しいホームページを構築したことは評価できる。
90	定期的に内部の検査を計画し、実施する。	定期的に施設・設備の点検を行い、要修繕箇所等について随時把握した。第一次中期維持修繕計画の全面的な見直しに際し、この結果を適切に反映させ、第二次中期維持修繕計画を策定した。	Ⅲ		第2期中期修繕計画を策定したことは評価できる。